

令和3年度 山梨県立日川学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	文武両道の実践を軸に心身を練磨し、高い知性と教養、たくましい身体と精神力、豊かな感性をあわせ持つ生徒を育成する。
-----------	--

山梨県立日川学校校長 萩原 章司

本年度の重点目標	1. 質の高い文武両道を求め、自ら学び、考え、行動する生徒の育成に努める。
	2. 個性や進路希望に応じた指導を行い、体系的なキャリア教育を推進する。
	3. 規律や責任を重んじ、豊かな心の育成に努める。
	4. 安全で信頼される学校づくりの推進に努める。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価				年度末評価(令和4年2月14日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	質の高い文武両道を求め、自ら学び、考え、行動する生徒の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 年次ごと家庭学習習慣の向上に努め、4時間学習・2時間練習を確立する。 学習目標の明確化及び指導と評価の一体化に努め、ICTの積極活用と、主体的対話的で深い学びの推進により、授業力の向上を図る。 効率的な指導や効率的な活動の研究により、個々の得意分野の伸長を図る。 障害者雇用を活用し、教員の事務負担を軽減する等、働き方改革を推進することで生徒の育成に係る時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケート実施 学習記録の電子化 下校時間の徹底 面談、補習の実施 大型TVの活用 職員研修の実施 授業公開日の設定 相互授業見学 ICT活用研修会の実施 分掌業務の移管 時間外勤務状況の改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に積極的に参加し、主体的な学習への取組を肯定的に評価した生徒は約70%であるが、授業の予習・復習や家庭における目標学習時間の確保を達成できた生徒は約60%弱であった。 ・全教職員が、各教科ごとに「指導と評価の一体化」による研究を深め、授業改善に取り組んだ。 ・学校からの定期考査や模擬試験の結果と学習時間集計などのデータを可視化し、クラス担任からの個別指導や年次における情報共有は図られている。 ・オンライン授業やICT研修を導入して教員のICT機器の活用が進んだが、Classiの活用は生徒に比べて有効活用度が低い。 ・業務の分担等で、働き方改革を進め、気軽に相談できる雰囲気づくりは醸成したが、時間外勤務減少を図る必要がある。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の時間の確保については、クラス担任・部活動顧問の協力指導・働きかけのもと、ICTを活用して、学校と家庭が連携して指導に当たることがある。 ・生徒には学習目標を設定させ、その目標に向けたロードマップ(学習計画)を描かせる指導が必要となる。新評価基準に基づく学力の向上と新大学入試に向けた実力アップを図ることが必要である。 ・さらにICT機器活用とその工夫を行い、生徒の主体的な学習活動や教員の事務作業の軽減を目指す。 ・授業や部活動指導に加えて、生徒指導など費やす時間が増えているので、メンタルヘルスについて注意し、多忙化の改善を目指す。
2	個性や進路希望に応じた指導を行い、体系的なキャリア教育を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 「サタデーサブリ」や「きずな」の活用及びキャリアサポート等による振り返り、2期目最終年のSSH課題研究への取組を通して主体的に進路を選択する能力を育成する。 多様な進路希望に応じた情報発信と意識の向上を図り、大学との連携を通じ、個々の目標実現に向け力強いサポートを行う。 18歳選挙権に対応した主権者教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> やまなしキャリア・サポート及びClassiの活用 SSH課題研究の全校指導 山梨大学との連携事業 進路講演会の設定 進路情報の提示 LHR、生徒会活動を通じた意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・全生徒がSSH課題研究に取り組み、自ら課題を発見し主体的に活動することによって、課題解決能力の育成に繋がり、キャリア・サポートに意欲的に取り組んでいる生徒が約80%弱、自分の進路希望に応じた進路情報を収集しようとしている。 ・様々な進路情報の提示について97%の生徒が肯定的に捉えている。その情報等を有効に収集し、積極的に活用しようとする姿勢がある一方で、講演会等、進路行事において積極的に情報を入手する等、具体的な行動に繋がらない生徒もいる。 ・生徒総会、生徒会選挙を通して主権者教育の指導・周知を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究SSHⅠ～Ⅲの時間確保・内容等について検証し、SSH3期目に備え深化・充実を図る。 ・キャリア・サポート、Classiを継続して有効活用し、さらに学習コンテンツのICT活用を模索している。 ・山梨大学との連携事業や、高大接続改革に向けた共同研究を継続していくと同時に、オンライン対応に備え事前指導や内容の精選、事後の振り返りを再構築する。 ・特別活動(HR、生徒会活動)の充実を図り、成人年齢となる年次生徒より社会的自立を促す教育を実践する。
3	規律や責任を重んじ、豊かな心の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> HR活動や生徒会活動を通じて道徳教育を推進する。 地域や関係団体と連携を図り、社会活動を積極的に行う。 教育相談体制を充実させ個々の生徒の理解を深め、適切な支援に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の指導計画作成及び共通理解 家庭と連携した取組の充実 地域行事・ボランティア活動への参加 異校種間交流の推進 SCの積極的な活用 定期的な生徒情報交換会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・新入生オリエンテーションや強歩大会は実施できなかったが、普段の教育活動であるHR、授業、部活動において生徒一人一人を大切に、生徒の自立性・自主性を尊重している。90%以上の生徒が肯定的な評価をしている。 ・豊かな心の育成や規範意識を高める教育について、保護者の評価が約90%であった。 ・コロナ禍でボランティアや地域行事への参加は少なかつたが、SSH行事等で小中学生との交流を行った。 ・教育相談に係る生徒の対応について、担任、年次、SCと密な連携が図られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育活動や主体的・対話的で深い学びの視点を意識した授業は、道徳教育や生き方あり方を考える機会となる。継続して全校体制で推進する。 ・自転車やバイクの運転マナーやモラル、SNSをはじめとする情報モラル等の課題について、生徒が主体的に考えられる教育を推進する。 ・学校と保護者が連携し、「人を思いやること」「規律と責任を重んじること」の重要性を徹底し、体験活動の重視、体育・健康に関する指導の充実を図る。
4	安全で信頼される学校づくりの推進に努める。	<ul style="list-style-type: none"> PTA活動の様々な機会を生かして学校との連携を推進する。 災害や事故に遭遇した際の危機対応能力や危機管理能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌、SSH通信の発行 定期的なHP更新 広報活動及びPTAとの連絡の徹底 避難防災計画の可視化 安全管理体制の徹底 保護者への情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやブログを使った情報発信、学校紹介ビデオや学校パンフレット作成、オンラインによる学校説明会等、広報に注力し、保護者や関係者から高い評価を得た。 ・コロナ禍による学校行事の縮小により保護者の協力機会は減少したが、フードドライブでは生徒・保護者の協力を得て連携を図った。 ・災害時の防災計画を周知したり、防災避難訓練においては、避難経路の確認や水害被害の学習等、身近に起こり得る具体的な行動・対応学ぶ機会を設けた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページやブログ、広報誌を工夫し、校内の情報を積極的に公開していく。学校行事だけでなく授業や部活動等、日々の活動を含め情報を発信している。 ・ボランティア活動や地域行事等を生徒に周知し、参加を促している。 ・学校行事に關しては、命の授業や折れない心を作る授業などを考え、促進していく。 ・ICT活用により、より身近な対策として生徒の危機対応能力を育成する。SNSの利用等についてルール・マナー徹底を図り、安全・安心な学校づくりを推進する。

学校関係者評価	
実施日(令和4年2月21日)	
評価	意見・要望等
3	<ul style="list-style-type: none"> ・文武両道について、一人ひとりの生徒が、学業に、スポーツなどのクラブ活動に、双方に励んでいる姿が見受けられ、よく取り組んでいる。文武両道精神が、健やかな生徒を、そして将来の人材を生み出しているものと考えられる。日川高校の生徒の活躍が、地元の小中学生の良い見本となっている。 ・文武両道とリーダーとして人づくりは、伝統的に良く根付いていると思う。学校評価から校長のリーダーシップのもと教育されていることが分かる。また、人としての基本となる挨拶を大切にしてくれる生徒が多いことはその証だと思う。 ・コロナ禍により仕事のあり方が大きく変化し、在宅、ワーケーション等が通常に行われる社会になっている。学習に主体的に取り組む姿勢やICT取り入れられた教育等に關しても、研究を積極的に、個人の指導教育力を高めてほしい。 ・働き方改革を推進していくことは必要であるが、学校評議員を含め外部人材を利用してほしい。教員の多忙化を改善すると同時に、モチベーション低下につながるような生徒・教員間の信頼関係や業務の達成感を奪られるような雰囲気づくりを心掛けて欲しい。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育に關しては、社会に貢献することの出来る人材の具体的な事例を多く提示していく事がわかりやすいのではないかと。可能であれば社会貢献の一助となる体験活動などの機会をより多く取り入れてほしい。 ・SSHは、日川高校の大きな魅力の一つになっている。目に見えない成果もあり、質の高い指導がされていると思う。出前授業の講師として関わり、生徒たちの反応も良く、よく学んでいた。先生方の指導の賜物だと思う。今後は、より自主性、主体性の向上を目指して目標をもっと行うことが肝要である。 ・成人年齢が18歳となり、参政権が認められるが、消費者としての教育が必ずしも十分ではない。契約書に署名押印することの重大性やキャッシュレス社会でのスマホ決済の落とし穴など、一定の認識を持っていないといけない。外部講師(弁護士等)の活用も有効であると思う。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ問題でも取り上げられるが、社会の縮図のような生徒らの意識は各々異なり、本質的に他と異なる形や考えを排斥して自らを守るという行動が、他の者から「苦痛」になるという意識を持つべきものだと思う。さらに、教員の一言がトリガー(引き金)となる意識も必要である。これは、自分の進路についてのも明確な目標を持つきっかけになり、1年次で将来に創造できる取組を行い、2年次以降、それを実現するために自分が進むべき道に導いていく。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な災害に対し、それぞれに適切に対応するには繰り返しの訓練しかないと言われている。コロナ禍でも災害は起こるので繁忙な高校生活の中でも生徒からの吸収力に期待している。 ・自動・共助・公助を再度確認し、有事の際に落ち着いて自信をもって行動できる知識提供を行う。 ・心のケアに關しては、命の授業や折れない心を作る授業などにも取り組んでほしい。 ・開かれた学校に關しては、不特定多数にはHPや広報誌が良いが、特定の団体や人の交流を交わし、深層理解してくれる人を増やすのも方法の一つだと思う。 ・お便り、通知などが保護者に届かないことは小中学校から継続している傾向である。日川高校で取り入れられているICT(Classi活用)による連絡・伝達方法は有効である。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
 (2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。